

## そばに置きたい



## 竹の青と白のコントラスト

くず入れかご（上平福也さん作） 直径22・5センチ、高さ31・5センチ。税抜き1万1千円。問い合わせは久野さんが関わる「手しごと」（電話03・6432・3867、火曜定休）へ。

外山亮一撮影



弾力や強度に優れ、竹細工によく使われる真竹が生育するのは岩手県の一関周辺が北限だと言われています。25年

ほど前、岩手県で手仕事の調査をしている時、一関より北の一戸で真竹を使った竹細工を見て驚きました。作っているのは、上平福也さんです。

竹の表面の青々とした部分を皮、皮をはいだ後に現れる白い部分を身と呼び、それぞれ必要な幅と厚みをとって小刀などではいでいきます。

竹が豊富にとれる九州では作り手自身が竹をとりに行くこともあります。丈夫な皮を多く使い、割れやすく腐りやすい身はあまり使いません。

これに対し、上平さんは竹を産地から仕入れる必要があり

ます。皮だけを素材にしているのは割に合わないのです、身も多く使っています。

私が出会った時、上平さんは30代でした。若い人に関わっていきたいと思って、色んなものを作ってもらいました。そんな中出来たのが、このかごです。この地域で使われていた大きな背負いかごを縮めてくず入れかごにしました。縦横を交差させる時の規則性を少し変えて模様を出す「網代編み」をしています。

皮を多めに使うようにお願いしましたが、皮と身を効果的に使うことで、青と白のコントラストが美しい見栄えになりました。

（手仕事フォーラム代表

久野恵一）